提案は基本的な考え方を簡潔に記載してください。文章を補完するための最小限の写真、イラスト、イメージ図は使用してよいが、設計の内容が具体的に表現されたものであってはいけません。設計図、模型（模型写真含む）、透視図等も使用してはいけません。

みんなに愛され未来につながる学校づくり

～ふるさとをいつくしむ豊かな心と未来を創造する力を育む学園～

●亀岡市立育親学園のコンセプトを実現する４つの実施方針

- 郷：亀岡で育つ時間を誇りに思える学び舎を創る
- 親：地域学習の核となる『共創空間』を創る
- 創：違いを認め違いを大切にする多様な居場所を創る
- 育：進んで調べ自ら考えるきっかけを生む仕掛けを創る



地域とともにつくる学び舎 親 創 育

●地域学習の核となる「コミュニケーションコア」

・豊かな自然環境や地域資源と育親学園との接点となる場として、「コミュニケーションコア」を提案し、地域とともにつくる学び舎を整備します。

・「コミュニケーションコア」によって児童・生徒、教職員、地域の方々の交流を促し、コミュニケーションの幅を広げることで教育の充実を図ります。



■地域学習の核「コミュニケーションコア」

対話を通じた最適な建物配置の検討 郷 親

●コミュニケーションコアを中心とした建物の配置検討

・コミュニケーションコアの配置を重視し、体育館の位置・共用部と特別教室の関係性・地域開放部分・サブグラウンドの位置、大きさ等の考え方により様々な案が考えられます。貴市及び学校関係者の皆様のご意見をいただきながら、育親学園にとって最適な配置案を検討していきます。



コミュニケーションコア ⇔ 災害連携 ⇔ 地域利用		
2階建	2階建	3階建
サブグランド約1000㎡：△	サブグランド約2000㎡：○	サブグランド約3500㎡：◎
災害時対応：◎	災害時対応：◎	災害時対応：△
地域開放部の多様性：◎	地域開放部の多様性：○	地域開放部の多様性：△
南西側の圧迫感：△	南西側の圧迫感：◎	南西側の圧迫感：△

■配置比較表

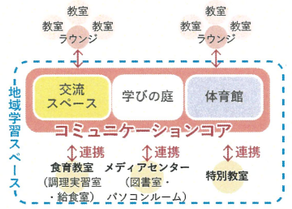
これから先の義務教育学校に求められる機能「コミュニケーションコア」 郷 親 創 育

●地域資源を活かした共創空間

・地域学習の核「コミュニケーションコア」は交流スペース、学びの庭、体育館によって構成します。

・全ての空間を一体でも分割しても利用でき、大きな催しや食育活動等の中心としても機能します。

・食育教室やメディアセンター、特別教室と連携することで多様な地域学習が行われます。



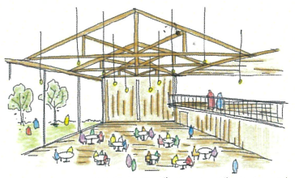
■コミュニケーションコア

●調理風景が教材となる食育スペース「まちのダイニング」

・交流スペースと食育教室を隣接させ、児童・生徒全員で食事ができる吹き抜けを有した開放的なランチルーム「まちのダイニング」を提案します。

・給食室の見える化によって、調理風景を食育の教材として利用できる空間を提案します。

・産地や名物等を紹介するコーナーを設ける等、積極的に食育の情報発信ができる計画とします。

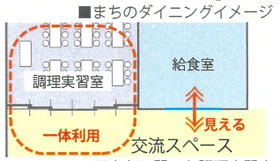


■まちのダイニングイメージ

●様々な空間と連携し多目的に使える「学びの庭」

・「学びの庭」は交流スペース、特別教室と一体的に使用できる設えとするため、再生木デッキによって構成します。

・「学びの庭」に面して、理科室や図工室等を配置することで、外部での実験や製作等、内外を有効に利用し、児童・生徒の学習の幅を広げます。



■まちに開いた調理実習室

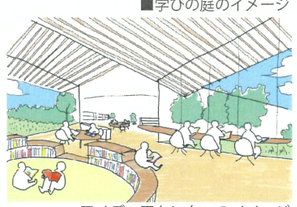


■学びの庭のイメージ

●知の中心となる「メディアセンター」

・図書室を核としたメディアセンターをコミュニケーションコアに面して設け、誰もが利用しやすい調べ学習の中心をつくります。

・デジタル機器を利用して検索や資料を調べたり、資料を作ったり、発表できるようにWifi環境やスクリーンの整備などを行うことで、ITリテラシーを育む教育環境を整備します。



■メディアセンターのイメージ

義務教育学校ならではの配慮事項 親 創 育

●学校の教育方針に寄り添う柔軟な普通教室配置

・中一ギャップや子供の発達の早期化等に対し、従来の6-3に加え、4-3-2や5-4といった学年の区切りに柔軟に対応できるよう、諸室構成とします。

・各学年1クラスに加え、余裕教室を計画することで多目的室や少人数学級、支援学級にも対応でき、教育方針に寄り添うフレキシブルな計画とします。

●1～9年生が共に生活することに対する配慮

・体格差や身体能力に差のある前期過程と後期過程は事故や怪我をしないよう動線を分離し、生活空間を分けるとともに、手摺、手洗いやサインの高さ等の寸法に配慮します。

・普通教室廻りのスペースは、大半の授業が教室で行われる前期過程、グループ学習の機会が増える中期過程、一斉形式の授業とともに、小集団学習や面談の機会が増える後期過程等、成長段階に合わせて教室の設えを提案します。

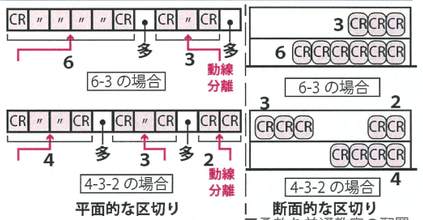
・特別教室には廊下に面して展示スペースを設ける等、他学年の作品や学習内容に触れることで、上級生への憧れや学年が上がることへの実感を生む空間作りを行います。

●地域・異学年交流を生む建築的仕掛け

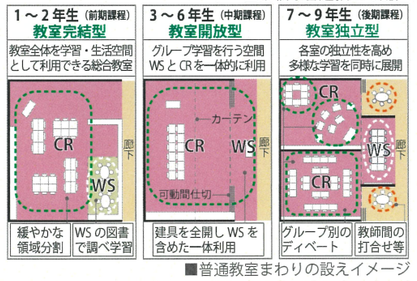
・人間関係の固定化を避けるために、コミュニケーションコアを中心に回遊性の高い廊下等で各場所をつなぎ、異学年交流を生む仕掛けをつくります。

・コミュニケーションコアは、昇降口から教室までの動線上に設け、自然に異学年や地域との交流が生まれる計画とします。

・廊下に面して適宜、井戸端スペースや観察デッキ等、日常の交流を生む空間を児童・生徒の生活空間に設けます。



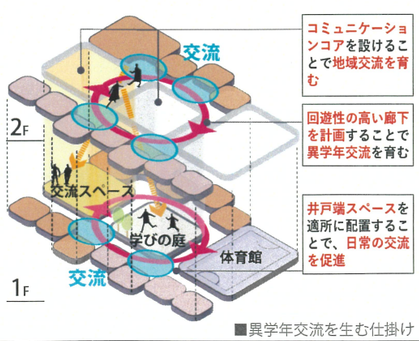
■柔軟な普通教室の配置



■普通教室まわりの設えイメージ



■特別教室作品展示イメージ



■異学年交流を生む仕掛け

教職員が働きやすい空間への配慮 親

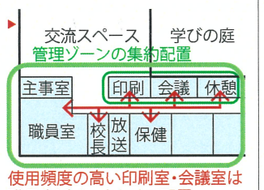
●教職員の負担軽減を考慮した管理ゾーンの合理化

・職員室、会議室、印刷室等の管理ゾーンを集約配置することで教職員動線の合理化を意識した平面計画を行います。

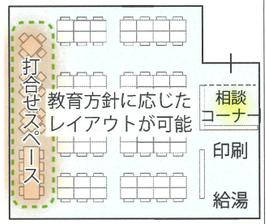
・職員室には打合せスペースや相談コーナーを設けます。児童・生徒、保護者、地域住民が気軽に立ち寄れる雰囲気とし、きめの細かい指導や気軽に相談を行える環境づくりを行います。

・学年の区切り方に柔軟に対応でき、教育方針に応じて様々なレイアウトが可能な執務空間を提案します。

・校内に分散した打合せスペース、機能的な印刷スペース、情報処理スペースの充実等、教職員の日常の負担を減らし、業務しやすい環境をつくります。



■会議・印刷の配置



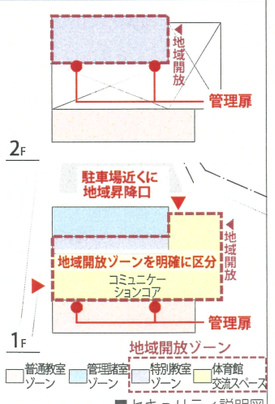
■職員室内の配置

地域も使いやすいセキュリティラインの設定 親

●地域開放ゾーンを明確にし、児童・生徒の学びの環境に配慮

・地域開放を行う諸室は普通教室や管理諸室ゾーンとは明確に分離してわかりやすいゾーニングを行います。セキュリティラインは廊下や階段等、管理扉で簡単に区分できるよう計画します。

・地域住民が利用しやすいように、来客用駐車場と近接して地域昇降口を設け、休日利用や体育館の単独利用など柔軟に対応出来る計画とします。



■セキュリティ説明図

(様式１１Ｂ)テーマ2についての提案「ライフサイクルコスト及び環境負荷の低減に対する考え方」

提案は基本的な考え方を簡潔に記載してください。文章を補完するための最小限の写真、イラスト、イメージ図は使用してよいが、設計の内容が具体的に表現されたものであってはいけません。設計図、模型（模型写真含む）、透視図等も使用してはいけません。

『メイド・イン・育親学園』のみらい教育

郷 親 育

●地域と共に育む育親文化

・周辺環境や地域住民と共に対面で学ぶ「アナログな教育」と、ICTや最新の技術等を活用した「デジタルな教育」が共存する育親学園らしい「みらい教育」をコミュニケーションコアを中心として実践します。

・環境・地域からの実体験を、ICT技術等を通じて地域に発信することで、学園を中心とした育親文化を育みます。

●子供たちが身近に感じる教材としての校舎

・環境配慮技術を『見える化』し、学習の教材とすることで、子供たちの学びと関心を促進します。

・深い庇の設置、高断熱ガラス、ハイサイドライトなどのパッシブデザインを取り入れた快適な室内環境に身を置くことで、対策の効果を実感します。

・身近に感じづらい、高効率機器等については効果を数値化し、エコモニタに投影し分かりやすく現します。

・環境に対する学習成果を展示して、地域に向けて発信します。



「アナログな教育」
・交流スペースで地域との連携学習
・フィールドワークなどの地域資源を活かした学習

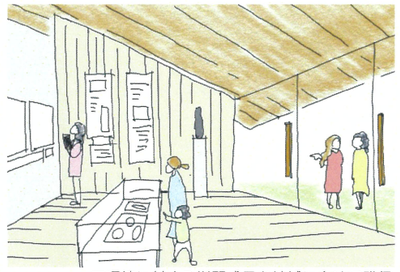
「デジタルな教育」
・メディアセンターでのデジタル交流学習
・ICTを活用し、校内のあらゆる所でアクティブラーニングの展開

■みらい教育の実現を可能にする施設づくり





■環境配慮設計の見える化



■環境に対する学習成果を地域に向けて発信

●記憶を紡ぐ学園づくり

・校舎の新築～解体までの過程に積極的に参加することは子供たちにとっての大きな学びとなります。地域住民や建設業者の協力のもと、工事現場の見学会や家具づくりWSなどを通して、子供たちや地域住民と共に育む学園づくりを行います。

・統合前の各校の思い出を伝える「メモリアルコーナー」を計画し、歴史文化を育む校舎づくりを検討します。

●地域とつながる学習農園

・グラウンドや学園内に設置した学習農園への散水に雨水を再利用し、資源の有効活用を行うと共に子供たちの節水意識を高めます。

・学習農園では学園内の落ち葉を集めて堆肥づくりを行い、地域の農家の協力を仰ぎ、地元特産の野菜を育てます。

・雨水散水により育てた野菜は、給食や地域イベントの中で提供することで、自然循環を感じる環境学習の題材とします。



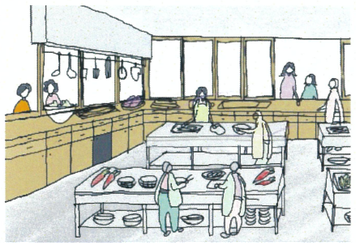
■建設ワークショップのイメージ



■現場見学会のイメージ



■統合校の記憶を伝えるメモリアルコーナー





■自然循環を体験できる調理実習室や給食室

環境配慮型建築と環境学習による総合的なLCC低減

郷 育

●環境配慮への理解による徹底的なコスト削減

・ZEB-Ready等の環境認証を達成するためには、従来の建物に比べてイニシャルコストが増大します。学校施設の特徴に合わせ、コストバランスの良い環境配慮メニューを採用します。

・【省エネ】【創エネ】の相乗的な効果を活用して、総合的な環境性能を高めることで、徹底的なランニングコストの低減を行います。

●施設の長寿命化による保守管理コストの削減

・亀岡市公共施設等総合管理計画の施策や学校施設長寿命化計画をふまえ、外部には耐久性のある建材を選定するとともに、長期にわたり改修しやすい工法を採用します。

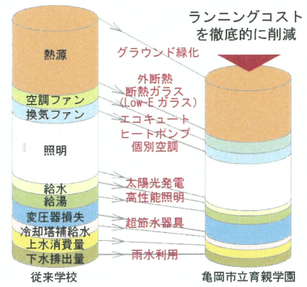
・庇の設置等、日常的なメンテナンスが容易な計画とし、保守点検費用を削減します。

・耐力壁の不要な純ラーメン構造を採用する等、内部更新が容易な計画とします。

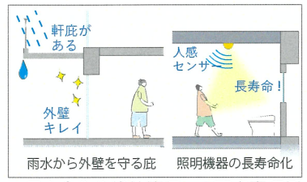
・設備スペースにゆとりのある計画とし、追加機器の設置やメンテナンスに配慮します。

●環境学習がもたらす、省エネへの意識改革

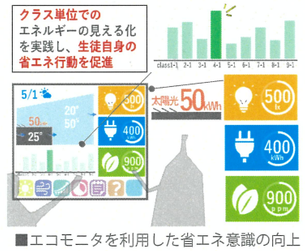
・エコモニタの設置等による環境学習を通して、子供たちの省エネ意識を高めることで、ランニングコストの低減を実現します。



■ランニングコスト低減のイメージ



■長寿命化や維持管理への配慮事項例



■エコモニタを利用した省エネ意識の向上

３つの視点で環境負荷低減を行い、ZEB-ReadyのBELS認証・エコスクールプラス事業の認定を取得します

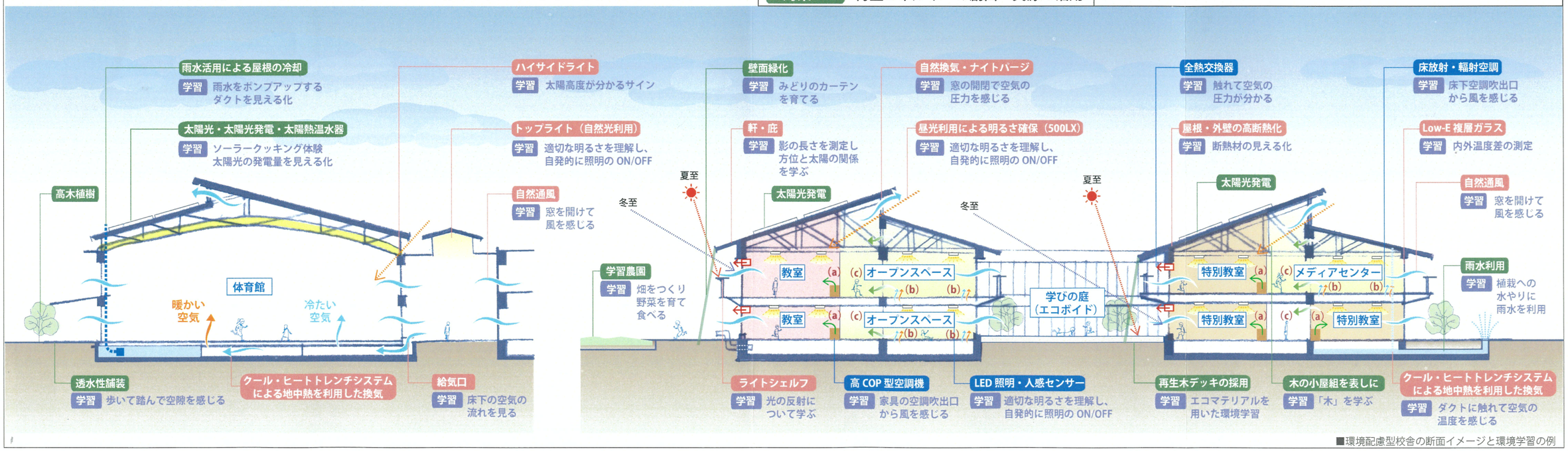
郷 創 育

●総合的な環境配慮技術により、ZEB-ReadyのＢＥＬＳ認証取得と、エコスクール・プラス事業における「省エネルギー・省資源型」「太陽光発電型」の認定を取得します。

・様々な環境配慮技術を「見える化」し、学習の教材とすることで、特色のある環境学習を行える校舎を目指します。

＜対策Ａ＞ 必要エネルギーの削減
＜対策Ｂ＞ エネルギーの効率利用
＜対策Ｃ＞ 再生エネルギーの創出・資源の活用

（ａ）個室：個別空調　冷暖房の空気は家具下より吹き出す
（ｂ）共用室：床放射・輻射空調　オープンな空間は居住域空調とする
（ｃ）共用部（廊下・オープンスペース等）：カスケード空調



■環境配慮型校舎の断面イメージと環境学習の例

(様式１１C)テーマ3についての提案「校舎木質化に関する考え方（市内・京都府内産木材の活用）」

提案は基本的な考え方を簡潔に記載してください。文章を補完するための最小限の写真、イラスト、イメージ図は使用してよいが、設計の内容が具体的に表現されたものであってはいけません。設計図、模型（模型写真含む）、透視図等も使用してはいけません。

まちの誇りとなる「木の学び舎」

郷 親 育

●地域産材をふんだんに使用した木の学び舎

・「見える」「香る」「触れる」等、子どもたちの感性に働きかける空間体験ができる木の学び舎を整備することで、「郷」＝ふるさとへの想いを実現します。

・より多くの地域産材を活用するため、「エコスクールプラスの木材利用型」の認定だけでなく「木の学校づくり先導事業」等、その他補助金の取得も視野に入れた先進的な木造校舎モデルの実現を目指します。

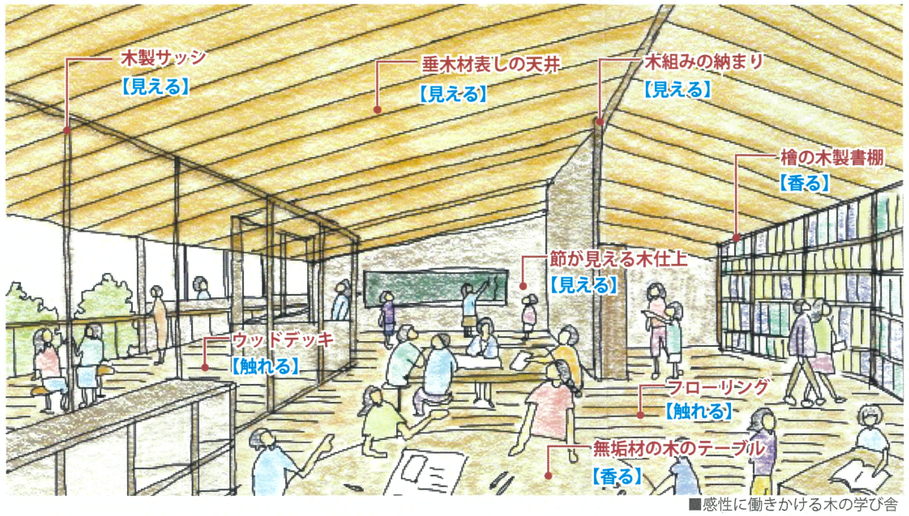
・「木架構を表した天井」や「節のある木材を利用した壁」等、積極的に木材を見せることで、児童・生徒の学びのきっかけづくりを行います。

・製材過程で出る端材をマルチング材等に活用することで、屋外でも木を感じる温かみのある環境を提案します。

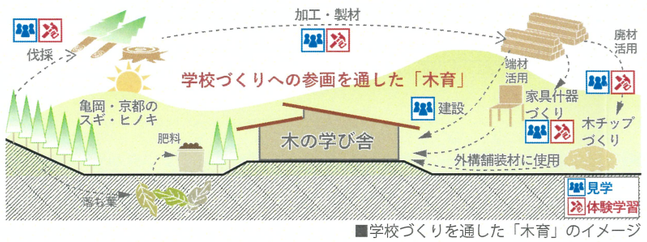
●学校づくりを通した亀岡の「木育」

・学校づくり行う上で、材木はもちろんのこと人材・技術なども含めた亀岡の地域資源を結集することで、地域としての「木育」を促進します。

・地元職人の協力のもと、児童・生徒が加工過程の見学・体験学習を行うことで、捨てるところがない木材循環の重要さを未来へ伝承します。



■感性に働きかける木の学び舎



■学校づくりを通した「木育」のイメージ



■マルチング材

「木の学び舎」を実現するうえで考慮すべき３つのポイント

郷

・木の学び舎を実現する上で次の３つの視点が重要と考え、下記に配慮した設計を遂行します。

❶法令　…建築基準法の防耐火基準に適合する設計を行います。

❷コスト　…使用部位、部材サイズによるコスト差が大きいため、適材適所の木材利用により、コストコントロールを行います。

❸木材調達…産地指定を行う場合、木材供給量に限りがあるため早期の材料調達を行います。

・校舎木質化の実現における主構造の考え方については、複数のパターンが考えられます。先に示した３つの観点をベースにしつつ、総合的な視点で比較検討を行います。

		全て木造	1階:RC造 上階:木造	RC造（屋根のみ木造）	RC造（内装に木材使用）
形状		木造 / 木造	木造 / RC造	母屋・垂木：木造 / RC造 / RC造	RC造 / RC造
法令	防火区画	木造部は耐火構造の壁で3,000㎡以下ごとに区画 ※耐火構造部は認定品を使用しない想定	2階を3,000㎡以下とすることで区画不要	不要	不要
法令	耐火性能	準耐火構造への適合が必要	準耐火構造への適合が必要	RC造のため耐火構造となる	RC造のため耐火構造となる
コスト	使用箇所	構造材・内装材に木材を使用	構造材・内装材に木材を使用	屋根架構材・内装材に木材を使用	内装材に木材を使用
コスト	部材サイズ	大断面木材を使用する場合コスト増	大断面木材を使用する場合コスト増	木材使用部は一般流通材でつくれるためコスト減	構造材で木材を使用しない
木材調達		大断面木材を使用する場合調達に時間を有する	大断面木材を使用する場合調達に時間を有する	木材使用部は一般流通材でつくれるため調達は容易	構造材で木材を使用しないため調達は容易

■校舎木質化のパターン検討

❶法令…木の性質を考慮した防耐火設計

郷

●木造における防耐火基準への適合

・木造採用時は「3,000㎡以内にRC造の壁等での区画」が必要であることを踏まえ、分節しやすい配置計画とします。

・避難経路の確保、燃え広がり防止の観点から建物周囲に３m以上の敷地内通路を確保します。

・本計画で求められる準耐火構造を木造で実現するには「木の構造を現しにできる燃え代設計」もしくは「外壁耐火構造」のいずれかへの適合が必要のため、意匠性および経済性の観点から比較検討を行います。

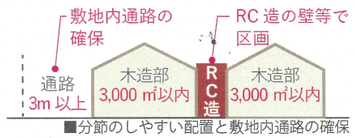
●木造3階建て校舎に求められる防耐火基準

・3階建てとする場合は「天井仕上げ不燃化」「バルコニー設置」「窓の防火措置」のうち、建物特性に最も適する手段を採用し、上階への延焼抑制対策を図ります。

●内装材への木材利用

・学校は一部の室を除き内装制限がかからないため、壁、天井を木質化することができます。

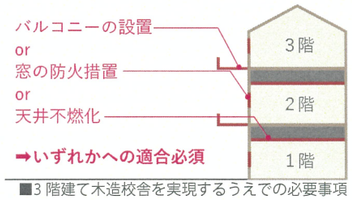
・内装制限がかかる室（避難経路や調理実習室等の火気使用室）も、不燃処理木材の使用を検討し、木質化を目指します。



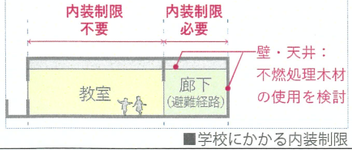
■分節のしやすい配置と敷地内通路の確保

	イ準耐（燃え代）	ロ準耐（外壁耐火）
形状	燃え代	
特徴	構造上必要サイズの木を木材で被覆 ➡木の構造体を現しにできる	外壁廻りの柱を石膏ボードで被覆 ➡木の構造体が隠れる
経済性	大断面の木材は製造工場が限定される	流通材で作れるため製造工場の限定はない

■イ準耐と ロ準体の比較



■3 階建て木造校舎を実現するうえでの必要事項



■学校にかかる内装制限

❷コスト…木材の特徴に着目した合理的設計

郷

●空間特性や規模に合わせた合理的な架構計画

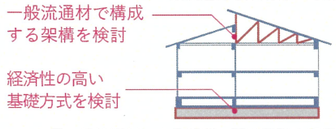
・集成材等の大断面木材は製造工場が限定されるためコスト増の要因となります。架構型式を検討し、可能な限り一般流通材にて構成します。

・大スパンの体育館や開放感が必要な空間については、一般流通材や鉄骨を組み合わせたトラス架構等を検討し、大断面集成材に頼らない計画とします。

・建物重量が軽量な木造を採用した場合、基礎工事にかかるコストの低減が可能です。

	流通材	集成材
形状		
特徴	架構の制約あり	大スパン部の架構を構成しやすい
コスト	流通量が多いため調達しやすく、価格も安い	製造工場が限定されるため、コストは高くなる

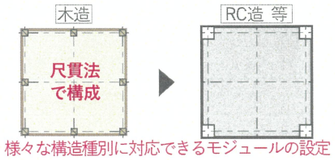
■一般流通材と集成材の比較



■一般流通材による架構と直接基礎の採用

●木材の価格変動に対応できるモジュール設計

・尺貫法によるモジュールにて設計を進めることで、木材の急な価格高騰時において、その他の構造形式へ変更が容易な計画とします。

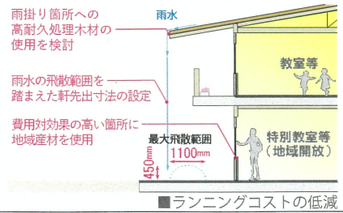


■徹底したモジュール設計

●木質化におけるライフサイクルコスト低減

・費用対効果を考慮し、地域住民や児童・生徒の目に止まりやすい部分を中心に地域産材を使用します。

・軒の深い庇や高耐久処理木材の使用等、メンテナンスに配慮した計画とすることで、木材の長寿命化を図ります。



■ランニングコストの低減

❸木材調達…早期の材料調達を意識した設計体制・工程

郷

●木材調達ネットワークを構築

・確実な木材調達のため、貴市、木材関係者、設計者等による「木材調達検討会」を立ち上げます。

・木材調達に向けた情報共有、条件整理、工程の検討等を基本計画、基本設計段階で重点的に行います。

・検討会には京都府の木材流通の横断的な知見を有する「木材コーディネーター」を参画させ、関係者同士の調整を円滑に行います。



■木材調達検討会のイメージ

●木材調達を意識した段階的な木材数量確認

・産地指定木材を使用する場合、調達可能木材量に限りがあるため、設計初期に森林組合へ調達可能な木材量・調達にかかる期間等を確認し、校舎木質化を実現する上での前提事項を早期に整理します。

・その後、基本設計を進めていくなかで、構造の設計方針決定及び内装イメージの方針決定のタイミングで仕様と合わせて木材使用数量の確認を行います。

・基本設計を完了するタイミングで木材数量の最終確認を行い、実施設計へと移行します。

基本計画・基本設計段階

第１回木材調達検討会
テーマ：調達可能な地域産材の仕様及び供給量の確認
・木材調達体制と供給能力の確認
・架構モデル、内装イメージ共有

第２回木材調達検討会
テーマ：構造設計方針及び木造木質化範囲の確認
・構造材、二次部材、内装材等の仕様及び数量の確認

第３回木材調達検討会
テーマ：木材先行発注における注意点とスケジュールの確認
・基本設計時点の木材数量の確認
・木材調達仕様書作成に係る注意点、工程の確認

■木材調達を意識した基本計画・基本設計のスキーム

(様式１１D)テーマ４についての提案「立地条件に対する考え方（景観・安全・風土等）」

提案は基本的な考え方を簡潔に記載してください。文章を補完するための最小限の写真、イラスト、イメージ図は使用してよいが、設計の内容が具体的に表現されたものであってはいけません。設計図、模型（模型写真含む）、透視図等も使用してはいけません。

豊かな自然と接続する開放的な校舎

郷 育

●立地から読み解く景観資源

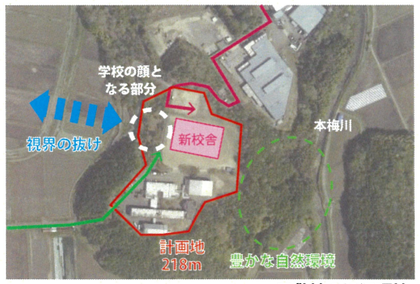
・本計画地は、周囲を山々に囲まれた盆地の中央に位置し、敷地の周りにはのどかな田園風景が広がっています。
・敷地は丘陵の頂に位置するため、周辺建物の影響を受けることなく美しい山並みへの眺望を確保できます。
・敷地西側は木々の密度も低く、視界の抜けを感じることができ、標高774mと周囲に比べて高い半国山への眺望も優れています。
・東側は傾斜のなだらかな森林となっており、麓には本梅川の豊かな自然環境が広がっています。

●周辺景観に調和した立面計画

・半国山の山並みに呼応するスカイラインを形成する為、親しみを感じる勾配屋根の校舎を検討します。
・趣のある里山や集落へ調和した色彩計画を検討することで、親しみやすい地域拠点の場を創出します。

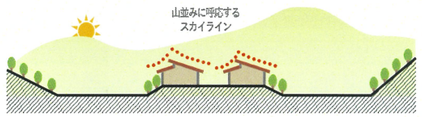


■計画地と周囲の山々の関係性



■敷地の周辺環境

周辺景観の読み解き ▶ 勾配屋根の採用 ▶ 周辺建物との調和 ▶ ・豊かな自然環境との調和 ・親しみやすい地域拠点の場の創出



■スカイラインの形成イメージ

●美しい山並みを体感する見晴らしテラス

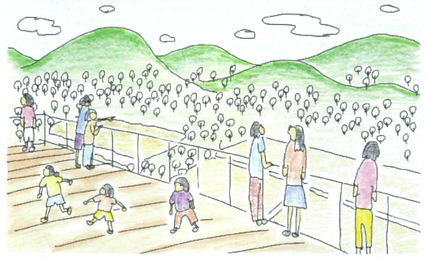
・新校舎建設予定地の西側に、シンボルプレイスとして半国山を望める見晴らしテラスを提案します。
・提案部分の既存林は、一部を伐採して建材として再利用します。
・地域住民や児童・生徒も参加できるワークショップ等を企画し、伐採した既存樹木等を家具や仕上げ材として再利用することで敷地の記憶を継承します。

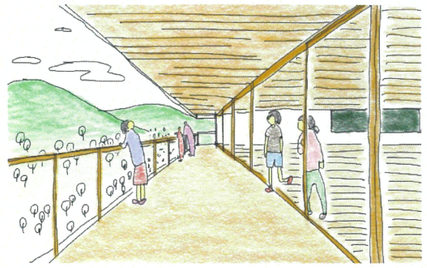
●壮大な山並みを感じる回廊教室

・教室前には、半屋外のバルコニーを設けることで、自然学習ができる多目的なスペースを確保します。
・深い庇を設け、直射日光や雨を遮ることで、授業中でもカーテンや窓を開放できる計画とします。

●自然文化を体感できるサブグラウンド

・自然文化の体験学習ができる低学年利用のサブグラウンドを提案します。
・豊かな自然環境が広がる東側に計画することで、森林を題材としたフィールドワーク等へも活用できます。


■半国山を望む見晴らしテラスのイメージ


■山並みを感じる回廊教室イメージ

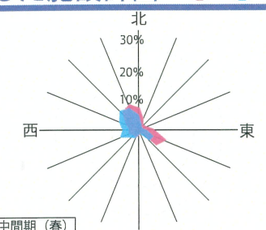

■自然文化の体験学習イメージ

亀岡特有の風土・文化を生かした施設計画

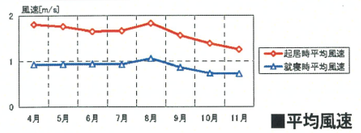
郷 親 育

●昼夜の寒暖差が大きい内陸性気候

・本計画地は、気候区分の上では瀬戸内海気候域に分類されますが、盆地特有の内陸的な気候特性をもつため、冬の寒さが厳しく夏は局地的に厳しい暑さが現れます。
・終日平均風速も1.1m/s（園部6月～9月）と、年間を通して風が弱く、また特徴的な卓越風もあまり見られないため、霧のまちとしても知られています。



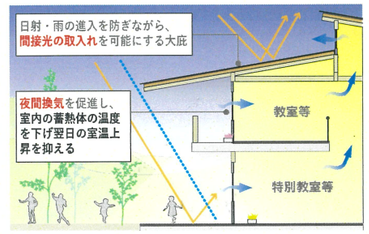
■月別風配置図



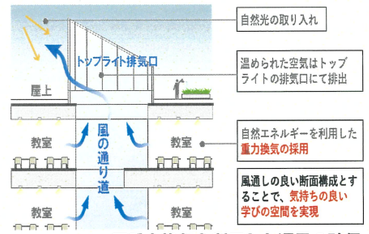
■平均風速

●亀岡の風土に合わせた断面計画

・風の弱い亀岡の風土に合わせて、普通教室では多方面からの通風を確保できる計画とします。
・ハイサイドライトや階段室の上部から重力換気により通風を促す計画とします。
・昼夜の温度差を生かし、夜間の外気を積極的に取り入れるナイトパージを提案します。
・霧の発生や気象情報等を観察出来る屋上テラスを設置することで、地域への愛着を育みます。



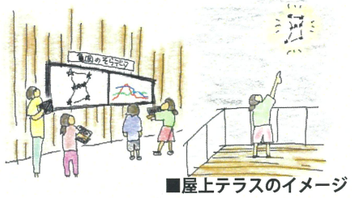
■ナイトパージによる夜間換気



■重力換気を利用した通風の確保

●亀岡の郷土愛を育む建材の利用

・床のフローリングには亀岡市の伝統工芸「竹細工」の原料である竹の活用を提案します。
・外構には丹波地方で産出される丹波鞍馬石の採用を検討し、児童・生徒が直接触れることで郷土愛を育みます。


■屋上テラスのイメージ

学校利用者の安心安全に配慮した動線計画

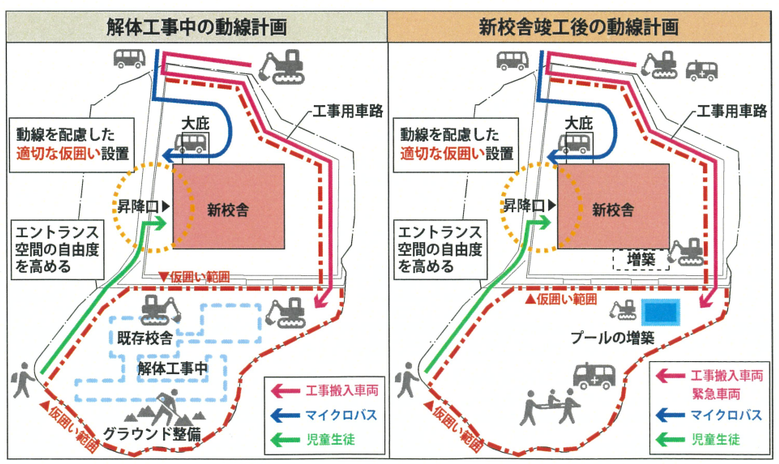
親 創

●安全性を高める新たな車両動線の確保

・東側に工事車両が通れる程度の車路を確保することで、解体工事やグラウンド整備の際に工事車両が児童・生徒と交錯しないように計画します。
・新校舎完成後の緊急車両や増築時の搬入動線等にも東側管理通路を利用することで、西側のエントランス空間の自由度を高めます。

●徹底的な歩車分離の実施

・駐車場にはバス通学者の安全性に配慮して、大庇付きの車寄せを提案します。



■東側管理通路の活用イメージ

災害時に避難所として転換しやすい施設計画

親 創

●避難所への迅速な機能転換

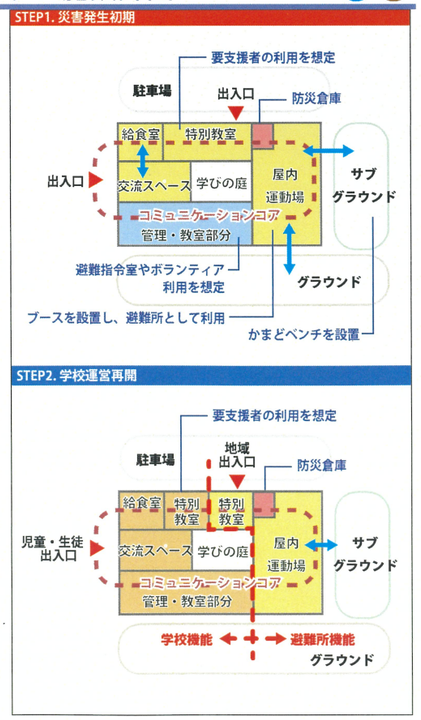
・地域開放ゾーンであるコミュニケーションコアを災害時に避難所として転換できる計画とします。
・会議室や音楽室はカーペット等の柔らかい床仕上げとしておくことで、高齢者等の要支援者が利用しやすい計画とします。
・給食室や防災倉庫は物資の搬入がしやすい位置に配慮します。

●学校機能との両立を図る管理区分

・避難生活が長期化した場合でも、学校機能と避難生活が両立できる様に管理区分を明確化します。
・地域出入口を設置することで、災害時にも動線が交錯しない計画とします。

●災害時に備えたBCP対策

・太陽光発電、蓄電池、自立運転型GHP等の採用により、災害時に最低限の電力が確保できる計画とします。
・外部には児童・生徒の防災意識の向上にも役立つかまどベンチを設置します。



■災害時の機能転換イメージ

児童・生徒の安心安全を見守る学び舎

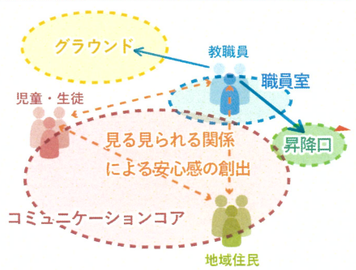
親 創

●全てを見渡せる職員室配置

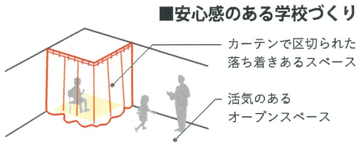
・グラウンドや昇降口を見渡せる位置に職員室を配置することで児童・生徒の安心安全を確保します。
・職員室をコミュニケーションコアにも隣接させ、地域住民・職員・児童・生徒の見る見られる関係により、安心感のある学校づくりを行います。

●インクルーシブ教育の実践

・活気のある場から落ち着きのある場まで様々な居場所をつくり、多様性のある学習環境をつくります。



■安心感のある学校づくり



■多様な居場所づくり

（様式１２）

業務の実施方針

みんなに愛され未来につながる学校づくり　～ふるさとをいつくしむ豊かな心と未来を創造する力を育む学園～

「郷」(きょう)「親」(しん)「創」(そう)「育」(いく) の具現化に向けて

郷　亀岡で育つ時間を誇りに思える学び舎を創る

地域と共に豊かな自然環境に呼応した場をつくることで、亀岡で過ごす時間がかけがえのない記憶として刻まれる学びの場をつくります。

◆具体的な取組方針
- 地域資源を取り込む効果的な半屋外空間を検討します
- 周辺を利用した様々な自然学習が可能な配置レイアウトとします
- 子供たちが地域風土を感じることが出来る素材を採用します
- 景観と調和し一体化する外観計画を検討します

親　地域学習の核となる『共創空間』を創る

児童・生徒、教職員、地域の方との絆を育み、多様な価値観を認め合う交流の場をつくります。

◆具体的な取組方針
- 交流スペースの活用イメージを関係者間で共有します
- 共創空間「コミュニケーションコア」の規模と仕様を検討します
- 地域開放部分とそれ以外のセキュリティや管理区分を明確にします
- コミュニティースクールの発足を検討します

創　違いを認め違いを大切にする多様な居場所を創る

学年・習熟度・身体等の違いを認め、違いを大切にし、多様な対話の場を提供することで、新たな気づきと挑戦する心を育む場をつくります。

◆具体的な取組方針
- 【普通・少人数・ひまわり】各教室の関係と柔軟な使い方を提案します
- 様々な個性を持つ子供たちの多様な居場所を共用部につくります
- 仕上げ材やサイン、家具など全てにユニバーサルデザインを検討します
- 新たな気付きを誘発する共用部のデザインを検討します

育　進んで調べ自ら考えるきっかけを生む仕掛けを創る

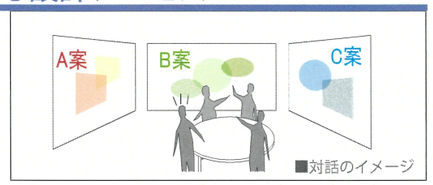
ICT等のデジタル技術と対話やジェスチャー等のアナログを融合させる「みらい教育」を実現する場をつくります。

◆具体的な取組方針
- 未来をつくるメディアセンターとして必要な機能を話し合います
- 今後も増加するICT機器に対応した環境整備を行います
- 様々な調べ方を子供たちが自ら選べるよう各諸室の配置を検討します
- 交流スペースや特別教室と一体となったメディアセンターを検討します

みんなの想いをかたちにする設計プロセス

●対話重視型の設計プロセス

・設計者が独断で図面を作成するのではなく、関係者の皆様と課題や状況を共有した上で、最終的な相互理解を目指して双方向での発信を行っていくことを重視して業務を進めていきます。
・丁寧で分かりやすい説明資料の作成を心がけ、関係者の皆様と共につくり上げるプロセスを大切にします。



■対話のイメージ



■ワークショップのイメージ

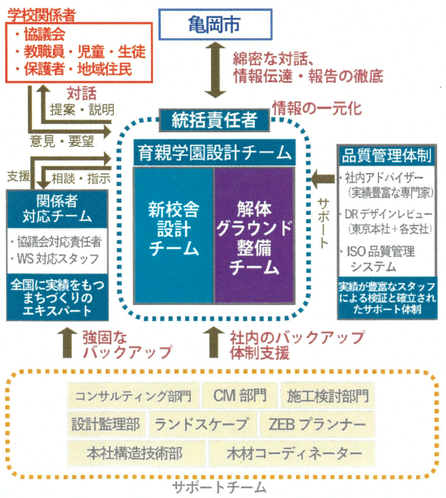
●学校関係者とともに進める設計プロセス

・効率的にワークショップを開催するため、設計フェーズに合わせた明確なテーマと参加者を設定し、具体的な議論が円滑に進むよう適切にサポートします。
・ファシリテーターとしての豊富な経験を持つスタッフを置き、様々な立場の参加者が議論しやすい場をつくることを心がけます。
・各業務フェーズの完了時期に協議会への報告を確実に行うことで、様々な意見や要望を聞き、対応を貴市とともに検討したうえで次のフェーズに反映します。

経験豊富なスタッフと充実したバックアップ体制

●全国に広がるネットワークを活用した設計体制

・学校や公共施設に豊富な経験を持つ担当者を揃え、課題に対し的確かつ迅速な解決案を提案します。
・全国に広がる様々な経験を持った所員の知識を活用し、諸問題に対して事例を含めたバックアップを行う体制を敷きます。
・関係者対応チームを社内に置くことで、時間のかかる協議会説明資料の作成やワークショップ対応などを確実に丁寧に進めていきます。
・コンサルティング部門や木材コーディネーターをサポートチームに加え、プロジェクトの特殊性に応じた確実な実施体制を構築します。



■設計体制図

手戻りを最小限とし遅延なく業務を完遂する業務実施フロー

●手戻りを最小限とする業務推進

・短期間で、基本構想・基本計画・基本設計・実施設計業務を遅延なく完遂する必要を認識し、実効性のある具体的、かつ総合的な業務フローを提案します。
・課題や与条件をリストにまとめ、検討項目の決定時期を整理したロードマップを作成し、各段階のタスク（決めるべき項目）に関するマイルストーンを明確にした、遅延の無い確実なスケジュール管理を行います。

●確実な合意形成と分かりやすい資料作り

・業務を確実に前に進める為、検討事項を明確化し適切なタイミングで確認します。
・模型やCGを多用した、専門家でなくとも分かりやすいプレゼンテーションを用いて、難解にならない丁寧で分かりやすい説明を行います。

●次工程を見越した先行着手型フロー

・基本構想では建物規模や階数の方向性を明確にし、続く基本計画での諸室規模やゾーニングにぶれが生じないよう検討します。
・基本構想にて方針が決まり次第、先行して必要諸室配置の検討を始めることで、スムーズに基本計画へ移れるようにします。
・基本計画にて建物構造・階数・設備方針が決まり次第、先行して構造/設備検討を進めることで、スムーズに基本設計に移行します。
・基本設計にて計画案が固まり次第、設計条件の再確認を行い、各所の詳細を含めた実施設計準備を先行して行います。

●複数の設計業務を同時進行する体制

・「新校舎設計チーム」と「解体・グラウンド整備チーム」の2チーム体制で限られた期間で複数の設計業務を確実に完了します。

基本計画・基本設計段階に重点を置いた入念なコストコントロール

社内に蓄積された各データより工事費の想定額を算出したところ、かなり厳しい予算であることが分かりました。資材や労務費の高騰が課題となっている昨今の社会状況下では、コストへの影響が大きい設計初期からの綿密なコストコントロールが必要です。

●コスト検証方針：設計の手戻りをなくす段階的なコスト検証

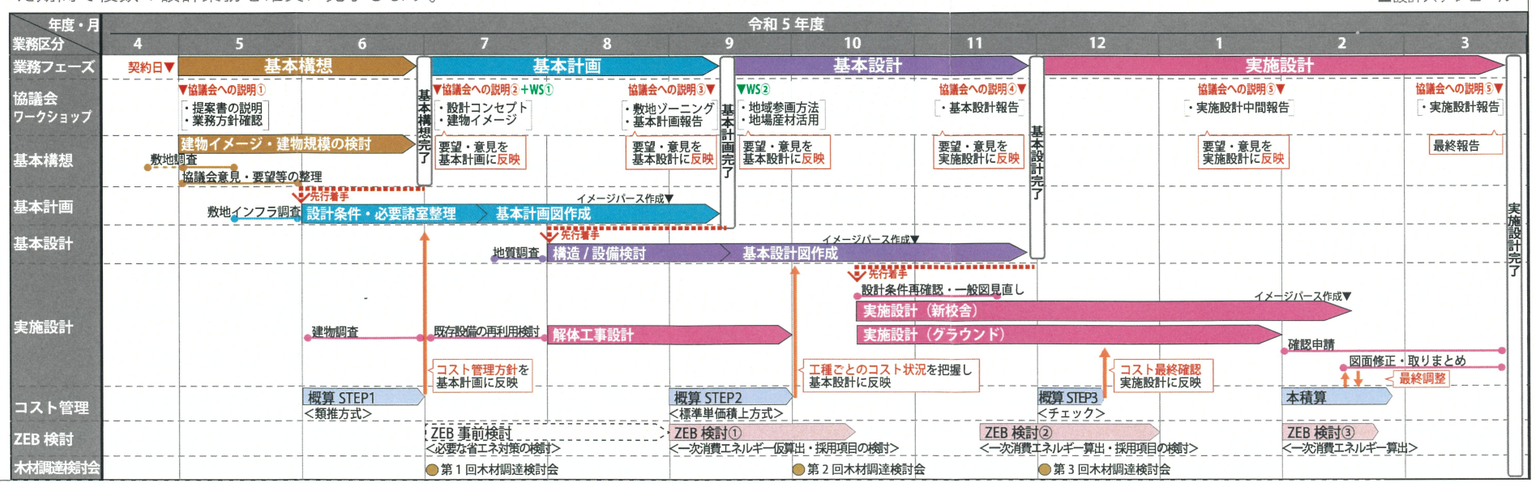
・工事予算との乖離による設計の手戻りを少なくするため基本構想、基本計画、基本設計それぞれの終盤にコスト検証を実施し、次のステップに確実に反映していきます。
・各概算の目的を明確化し、段階に適したコスト検証を実践します。

●設計方針：コスト検証を踏まえた設計へのフィードバック

・構造/設備の仕様が固まる基本計画・基本設計時に、建設コストの約80％が決まる為、設計初期段階のコスト管理を徹底する方針とします。
・各段階のコスト検証の結果により、計画条件・設計内容を見直したうえで次ステップに進むことを徹底します。

●市場の最新状況の把握と積算方法へのフィードバック

・現時点において価格変動が激しい鋼材・木材等については、専門業者にヒアリングを行い最新の価格変動状況を把握します。
・関西地区を中心とした他府県の市町村の同種施設の入札結果を分析し、公共工事の最新の動向を把握します。
・刊行物を基に工事別・主要資材別のマンスリーレポートを作成し、最新の市場価格の変動を把握します。



■設計スケジュール